

第8話 散文の物語

サルの生き肝

収録日：1999年09月29日

資料番号：35298B

添付CD：6-3（7分25秒）

第8話 散文の物語「サルの生き肝」⁽¹⁾

シネ サル² ミシム ヒネ
sine saru mismu hine
一匹の 猿 寂しい ので

一匹の猿が寂しいので

オラ ピシ タ サン ヒネ
ora pis ta san hine
こんど 浜 に 出 て

浜辺に来て

シララ カ タ アン ヒネ
sirar ka ta an hine
磯 の上 に い て

岩の上にはいました。

アトウイ オルン インカラ コロ アン アクス
atuy or un inkar kor an akusu
海 の所 を 見 ながら い たところ

海を見ていると

5 オラノ アトウイ オツ タ チプ ウサ チプ
orano atuy or ta cip usa cip
そして 海 の所 に 舟 色々 舟

海にいろいろな舟が

ウタサタサ シリ ネ サル ヌカラ
utasatasa siri ne saru nukar
行き交う 様子 その 猿 見る

行き交う様子が見え

エアラキンネ エヤイコプンテク コロ
earkinne eyaykopuntek kor
とても 喜び ながら

とても喜んで

アトウイ オルン インカラ コロ アン
atuy or un inkar kor an
海 の所 を 見 ながら いる

海を見て

ルウエ ネ アクス
ruwe ne akusu
こと だっ たところ

いました。

10 オロ タ シネ ポン エチンケ³ エキネ
oro ta sine pon ecinke ek_hine
そこ に 一匹の 小さい 海亀 来 て

そこに一匹の小さい海亀が来て

“サル サル タン アトウイ ケシ タ
“saru saru tan atuy kes ta
猿 猿 この 海 の端 に

「猿よ、猿。この海の端に

-
- 1 調査年月日は1999年9月29日。アイヌ民族博物館のアイヌ文化教室「口承文芸の夕べ」の事前調査として上田トシ氏宅で行われた。調査者は本田優子氏。アイヌ民族博物館音声資料35300Aに同話の別録音がある。トシ氏はこの話を、田村すず子編著『アイヌ語音声資料3—サダモさんの昔話—』所収「小ザルが一匹」（話者：平賀サダ）(pp.29-31)を聞いて覚えたと思われる。この話は日本民話の「竜宮城の乙姫（または竜王の姫）が病気になり猿の生き肝を所望する」というタイプの話がアイヌ文化に伝わったとされる。しかしこの録音には「金の井戸」などアイヌの口承文芸に独特な要素も加味されている。
- 2 日本語からの移入語。北海道に猿の仲間は生息していない。
- 3 ウミガメの類はアイヌ文化では頭骨を守り神として大切にされるなど馴染みのある生き物なので、こうした話に登場しても違和感なく受け入れられたのだろう。

パイェアン ヤクン
paye=an yakun
行く(私達)ならば

行ったならば

ポロ カネ シンプイ アン ワ
poro kane sinpuy an wa
大きい 金 井戸 あっ て

大きな金の井戸がある。

ネ カネ シンプイ オロワ アフナン コロ
ne kane sinpuy orowa ahun=an kor
その 金 井戸 から 入る(私) と

その金の井戸から入って行くと

15 カネ チセ ポロ チセ アン ワ
kane cise poro cise an wa
金 家 大きい 家 あっ て

金の大きな家があつて

エアラキンネ アエキロルン アン⁴
earkinne a=ekirorun an
とても (私達)楽しい

とても楽しい

ピリカ ウシケ アン ペ ネ ナ。
pirka uske an pe ne na.
良い 場所 ある もの だ よ

良い場所があるのだよ。

エウン シネウエアン ナ”
eun sinewe=an na”
そこに 遊びに行く(私達) よ

そこへ遊びに行こう」

セコロ エチンケ ハウエアン アクス サル
sekor ecinke hawean akusu saru
と 海亀 言っ たところ 猿

と言うので猿は

20 “ケ、マク クイキ ヒネ
“ke, mak ku=iki hine
へえ どう (私)する して

「へえ、一体どうやったら

カラパ ハウエ”
k=arpa hawe”
(私)行く という

私が行けるといふんだい」

セコロ サル ハウエアン アクス エチンケ
sekor saru hawean akusu ecinke
と 猿 言っ たところ 海亀

と言うと海亀は

“エンカ タ ア”
“en=ka ta a”
(私の)上 に 座れ

「私の上に座りなさい」

セコロ エチンケ ハウエアン ヒ クス
sekor ecinke hawean hi kusu
と 海亀 言っ た から

と言いました。

4 エキロロアン ekiroroan がおもしろい [田] と言おうとしたか。

- 25 ネ サル エチンケ カシ タ ア アクス
 ne saru ecinke kasi ta a akusu
 その 猿 海亀 の上 に 座っ たところ
 猿が海亀の上に座り
- オラノ アトウイ トモトウイェ
 orano atuy tomotuye
 そして 海 を横切る
 海を横切って
- パイェアン⁵ アイネ…
 paye=an ayne…
 行く(人) うちに
 行くと
- クス ソンノ カネ カネ シンプイ アン ヒネ
 kusu sonno kane kane sinpuy an hine
 ので 本当に も 金 井戸 あっ て
 本当に金の井戸がありました。
- ネ カネ シンプイ カリ
 ne kane sinpuy kari
 その 金 井戸 を通る
 その金の井戸を通して
- 30 アフパン ルウェ ネ アクス
 ahup=an ruwe ne akusu
 入る(私) こと だっ たところ
 入って行くと
- カネ チセ ポロ チセ アン
 kane cise poro cise an
 金 家 大きい 家 ある
 金の家、大きな家がありました。
- ピリカ オタニコロ アン ヒネ
 pirka otanikor an hine
 良い 砂浜 あっ て
 きれいな砂浜があつて
- オロ タ カネ チセ アン ルウェ ネ アクス
 oro ta kane cise an ruwe ne akusu
 そこ で 金 家 ある こと だっ たところ
 金の家があり
- オロ タ ネ エチンケ エネ ハウエアニ。
 oro ta ne ecinke ene hawean _hi.
 そこ で その 海亀 このように言った
 そこで海亀は
- 35 “テ タ エンテレ ワ アナニ”
 “te ta en=tere wa an _hani”
 ここで (私)待っ て いてね
 「ここで私を待っていてね」
- セコロ エチンケ ハウエアニ コロ
 sekor ecinke hawean kor
 と 海亀 言い ながら
 そう言いながら
- ネ カネ チセ オルン アフン ア プ
 ne kane cise or un ahun a p
 その 金 家 の所 に 入 た が
 その金の家に入って行きました。

5 このあたりから人称接辞ア a、アン =an などが混在するようになるが、日本語訳は三人称で通した。

オラノ ネブ…
orano nep…
そして 何

そして

アテレ ヤツカ ソイエネ カ ソモ キ。
a=tere yakka soyene ka somo ki.
(私)待っ ても 外に出る も しない

待っていても海亀は外に出て来ません。

40 オラノ サル ホシピ ヒ カ
orano saru hosipi hi ka
そして 猿 帰る ことも

猿は帰る方法も

エランペウテク ペ ネ クス
erampewtek pe ne kusu
わからない もの だ から

わからないので

エネネ ヒ カ イサム ワ
enene hi ka isam wa
どうする ことも なく て

どうしようもなく

サル オロ タ オタニコロ オッタ
saru oro ta otanikor or_ta
猿 そこ で 砂浜 の所で

その砂浜で

シノツ コロ アン ルウエ ネ アクス
sinot kor an ruwe ne akusu
遊び ながら いる こと だっ たところ

遊んでいると

45 オロ タ トニン⁶ コイヤンケ ヒネ
oro ta tonin koyyanke hine
そこ に ミミズ 寄りあがっ て

そこにミミズが寄りあがって来て

エキネ オラ エネ ハウエアニ。
ek_hine ora ene hawean_hi.
来 て こんど このように言った

こう言いました。

“サル サル
“saru saru
猿 猿

「猿よ、猿。」

ヘマンタ エエカラ クス アエトウラ ワ
hemanta e=ekar kusu a=e=tura wa
何 (お前)する ために (人がお前を)連れ て

一体どうしておまえがここに連れられて

エエク ルウエ ネ ヤ エエラムアン”
e=ek ruwe ne ya e=eramuan”
(お前)来ること だ か (お前)わかる

来たかわかるかい」

50 セコロ ネ トニン ハウエア
sekor ne tonin hawean
と その ミミズ 言う

とそのミミズが言いました。

6 トニン tonin (tunin [田]) はミミズだが、海の中にミミズがいるというのは少し違和感がある気がする。前掲書ではトウンヌ tunnu クラゲとなっている所。

ルウエ ネ ヒ クス
 ruwe ne hi kusu
 こと だ だから

“ネプ カ アエランペウテク ノ
 “nep ka a=erampewtek no
 何 も (私)わからない で

「何もわからずに

アエントウラ ワ エカン ルウエ ネ ワ”
 a=en=tura wa ek=an ruwe ne wa”
 (人が私を)連れて 来る(私) こと だ よ

連れられて来たのだよ」

セコロ サル ハウエアン ルウエ ネ アクス
 sekor saru hawean ruwe ne akusu
 と 猿 言う こと だっqたところ

と猿が言うと

55 ネ トニン エネ ハウエアニ。
 ne tonin ene hawean _hi.
 その ミミズ このように言った

ミミズはこのように言いました。

“タン アトウイコロカムイ マツネポホ
 “tan atuykorkamuy matnepoho
 この 海の神 の娘

「この海の神の娘

シネ マツネポホ タクプ コロ ペ
 sine matnepoho takup kor pe
 ひとり 娘 だけ 持つ もの

たったひとりだけ授かった娘が

シイエイエ ヒネ タネ ライ ノイネ アン ワ
 siyeye hine tane ray noyne an wa
 病気 して もう 死ぬ ようで あっ て

病気でもう死んでしまいそうになり

オラ エネ ハウエアニ。
 ora ene hawean _hi.
 こんど このように言った

このように言ったのだ。

60 サル サンペヘ ヘネ アエ ヤクン
 ‘saru sanpehe hene a=e yakun
 猿 の肝 でも (私)食べる ならば

『猿の肝でも食べたなら

シクヌアン エアシカイ ナンコロ
 siknu=an easkay nankor’
 生きる(私) できる だろう

生きることができるでしょう』

セコロ アトウイコロカムイ マツネポホ
 sekor atuykorkamuy matnepoho
 と 海の神 の娘

と

ハウエアン ルウエ ネ ヒネ オラ…
 hawean ruwe ne hine ora…
 言う こと で して こんど

言ったために

クス アエトウラ ワ エエク ルウエ ネ ワ”
 kusu a=e=tura wa e=ek ruwe ne wa”
 ので (人がお前を)連れて (お前)来る こと だ よ

そのためにおまえは連れて来られたのだよ」

- 65 セコロ トニン ハウエアン ルウエ ネ イネ
 sekor tonin hawean ruwe ne_hine と言うので
 と ミミズ 言う こと で して
- エアラキンネ アエキマテク コロカ
 earkinne a=ekimatek korka 本当に驚いたけれど
 本当に (私)驚く けれど
- エネネ ヒ カ イサム。
 enene hi ka isam. どうしようもありません。
 どうする こと も ない
- ホシピアン カ アエアイカツ ペ ネ クス
 hosipi=an ka a=eaykap pe ne kusu 帰る(私)も(私)できないので
 帰る(私) も (私)できない もの だ から
- キマテカン コロ アナン ヒケ カ
 kimatek=an kor an=an hike ka 焦っていましたが
 焦る(私) ながら いる(私) して も
- 70 エチンケ ソイエネ カ ソモ キ アイネ
 ecinke soyene ka somo ki ayne 海亀は外にも出て来ませんでした。
 海亀 外に出る も しない うちに
- エチンケ ソイネ ヒネ オラ
 ecinke soyne hine ora やがて海亀が出て来て
 海亀 外に出 て こんど
- “ヘタク アフパン ロ”
 “hetak ahup=an ro” 「さあ入ろう」
 早く 入る(私達) しよう
- セコロ エチンケ ハウエアン コロ
 sekor ecinke hawean kor と言って
 と 海がけ 言い ながら
- サル シレン ルウエ ネ アクス
 saru siren ruwe ne akusu 猿を連れて行こうとしたところ
 猿 連れる こと だっ たところ
- 75 サル エネ ハウエアニ。
 saru ene hawean_hi. 猿はこう言いました。
 猿 こう言った
- “アコロ サンペヘ”
 “a=kor sanpehe” 「私の肝は
 (私)の 肝
- ニ カ タ アサツケ ア プ
 ni ka ta a=satke a p 木の上に干しておいたのを
 木 の上に (私)干し た もの
- アオイラ ヒネ エカン ワ
 a=oyra hine ek=an wa 忘れて来たのだ。
 (私)忘れ て 来る(私) して

- アサンペヘ カ イサム ペ ネ”
a=sanpehe ka isam pe ne”
(私)の肝 も ない もの だ
- 私には肝がないのだよ」
- 80 セコロ サル ハウエアン ルウエ ネ アクス
sekor saru hawean ruwe ne akusu
と 猿 言う こと だっ たところ
- すると
- オラ エチンケ ヤイヌ フミ アニ。
ora ecinke yaynu humi an _hi.
こんど 海亀 思う こと こうだった
- 海亀は
- “サンペヘ カ イサム サル
“sanpehe ka isam saru
肝 も ない 猿
- 「肝もない猿を
- アアフンケ ヒケ カ マク ネ プ アン”
a=ahunke hike ka mak ne p an”
(私)入れ て も どう なる の だ
- 家に入れてもどうするのだ」
- セコロ エチンケ ヤイヌ ワ
sekor ecinke yaynu wa
と 海亀 思っ て
- と思いました。
- 85 “ネ サンペヘ アウケ ワ
“ne sanpehe a=uk wa
その 肝 (私)取っ て
- 「その肝を持って
- エカン ワ エアシリ”
ek=an wa easir”
来る(私) して それから
- 来てからのことだ」
- セコロ サル ハウエアン ペ ネ クス
sekor saru hawean pe ne kusu
と 猿 言う もの だ から
- と猿が言うので
- ネ サンペヘ アウケ クス
ne sanpehe a=uk kusu
その 肝 (私)取る ために
- 肝を取りに
- オラ スイ エチンケ カシ タ
ora suy ecinke kasi ta
こんど また 海亀 の上 に
- 猿はまた海亀の上に
- 90 アアン ルウエ ネ アクス
a=an ruwe ne akusu
座る(私) こと だっ たところ
- 座って
- オラノ アラキアン ヒネ
orano arki=an hine
そして 来る(私) して
- 戻り
- ネ… ヤ タ… ヤ オシライエアン パクノ
ne... ya ta... ya osiraye=an pakno
その 陸 に 陸 に上がる(私) まで
- 陸に上陸するところまで

エカン ヒ クス
ek=an hi kusu
来る(私) だ から

来たので

シララ カ タ テレケアン テク ヒネ
sirar ka ta terke=an tek hine
磯 の上に 跳ねる(私) さっと して

岩の上に跳びあがりました。

95 ネ サル テレケ テク イネ
ne saru terke tek hine
その 猿 跳ねる さっと して

猿は跳ねて

オラ イヨッタ ヌプリ ケウエリ ヌプリ
ora iyotta nupuri keweri nupuri
こんど 一番 山 高い 山

一番高い山に

トゥラシアン。
turasi=an.
登って行く(私)

登って行きました。

オラ ヌプリ カ タ イヨッタ ケウエ…
ora nupuri ka ta iyotta kewe…
こんど 山 の上に 一番 高い

その山の一番高い

チクニ トウラシ アラパアン ヒネ
cikuni turasi arpa=an hine
木 登って 行く(私) して

木に登って

100 ネ ニ カ タ サル アラパ ヒネ
ne ni ka ta saru arpa hine
その 木 の上に 猿 行っ て

行って

ニ カ タ シノツ コロ アン。
ni ka ta sinot kor an.
木 の上で 遊び ながら いる

木の上で遊んでいました。

ラポッケ オラ ネ エチンケ アナクネ
rapokke ora ne ecinke anakne
そのうちに こんど その 海亀 は

しばらく海亀は

サル ネ サンペ ウク ワ ラン ペ ネ
saru ne sanpe uk wa ran pe ne
猿 その肝 取っ て 下る ものだ

猿が肝を取って下りて来るだろう

クナク ラム ワ
kunak ramu wa
と 思っ て

と違って

105 オラノ テレ ワ アン ヤッカ
orano tere wa an yakka
そして 待っ て い ても

待っていましたが

サル ホシピ カ ソモ キ。
saru hosipi ka somo ki.
猿 帰る も しない

帰って来ませんでした。

- ラン カ ソモ キ プ ネ クス
ran ka somo ki p ne kusu
下る も しない ものだ から
下りて来ないので
- オラノ エチンケ テレ ワ アン アイネ
orano ecinke tere wa an ayne
そして 海亀 待つ て いる うちに
海亀は待ちながら
- オラ エチンケ エネ ヤイヌ ヒ
ora ecinke ene yaynu hi
こんど 海亀 このように思った
こう思いました。
- 110 “ きっとあの ネ サル エウン
“ ne saru eun
あの 猿 に
「きっとあの猿に
- トニン ウェンカムイ⁷
tonin wenkamuy
ミミズ 悪いやつ
ミミズの悪い奴が
- タップネ ネ ヒ イェ ワ
tapne ne hi ye wa
こうである こと言っ て
このようなわけだと教え
- サル ヌ ワクス キラ クス
saru nu wakusu kira kusu
猿 聞く だから 逃げる ために
猿がそれを聞いて逃げるために
- スンケ ワ ルラレ ヒ ネ ”
sunke wa rurare hi ne ”
嘘をつい て 運ばせる ことだ
嘘をつかれ運ばされたのだ」
- 115 クニ… オラ エアシリ エチンケ ヤイヌ ワ
kuni... ora easir ecinke yaynu wa
と こんど 初めて 海亀 思っ て
そこで初めて海亀は気がついたのです。
- オラノ ネ エチンケ イルシカ ヒネ
orano ne ecinke iruska hine
それから その 海亀 怒っ て
海亀は
- ネ トニン コイルシカ ワ クス
ne tonin koyruska wa kusu
その ミミズ に怒る だから
そのミミズに対して怒ったので
- アコイパク ワ クス
a=koypak wa kusu
(私)罰する だから
罰を与えて
- エチンケ ポネヘ カ
ecinke ponehe ka
海亀 骨 も
ミミズの骨を

7 こうした場合の kamuy は「神」と訳すよりは「やつ」という感じの蔑称と考えた方がしっくり来る。

120 オピッタ アエタイェ ワ クス
opitta a=etaye wa kusu
みんな (私)抜く だから

みんな引き抜いてしまったので

ネ トニン セコロ アイェ プ アナクネ
ne tonin sekor a=ye p anakne
その ミミズ と (人)言う もの は

ミミズというものは

ポネ サク ペ ネ セコロ アン。
pone sak pe ne sekor an.
骨 ない もの だ と いう

骨がないものだということです。